

毛利崇 学位論文審査要旨

主査 梅北善久
副主査 景山誠二
同 林一彦

主論文

Aberrant expression of AID and AID activators of NF- κ B and PAX5 is irrelevant to EBV-associated gastric cancers, but is associated with carcinogenesis in certain EBV-non-associated gastric cancers

(AIDとAID活性化因子であるNF- κ B、PAX5の異所性発現は、EBV関連胃癌とは関連しないが、一部のEBV非関連胃癌の発がんに関連する)

(著者：毛利崇、長田佳子、桑本聡史、松下倫子、杉原弘貢、加藤雅子、堀江靖、村上一郎、林一彦)

平成29年 Oncology Letters 13巻 4133頁～4140頁

参考論文

1. Immunoglobulin expressions are only associated with MCPyV-positive Merkel cell carcinomas but not with MCPyV-negative ones: comparison of prognosis

(免疫グロブリン発現はMCPyV陽性メルケル細胞癌のみと関連するが、MCPyV陰性のものとは関連しない：予後の比較)

(著者：村上一郎、高田尚良、松下倫子、野中大輔、岩崎健、桑本聡史、加藤雅子、毛利崇、長田佳子、北村幸郷、吉野正、林一彦)

平成26年 The American Journal of Surgical Pathology 38巻 1627頁～1635頁

審 査 結 果 の 要 旨

本研究は、リンパ球浸潤胃癌15例および年齢、性別と病期を合致させたリンパ球浸潤胃癌以外の対照胃癌15例を用いて、遺伝子改変酵素Activation-induced deaminase (AID) およびAID調節因子の免疫組織学的発現をH-scoreで半定量評価し、EBV関連胃癌の発がん機序におけるAIDの関与について検討したものである。その結果、異所性AIDおよびAID活性化因子(NF- κ B、PAX-5)発現のH-scoreは、EBV関連胃癌がEBV陰性胃癌より有意に低く、AIDがEBV陰性胃癌の一部において発癌に寄与するのに対して、EBV関連胃癌の発癌にはAIDがあまり関与しないことが示唆された。本論文の内容は、EBV関連胃癌においてAIDの関与を検討した最初の報告であり、明らかに学術水準を高めたものと認める。